



「幹を太らせ、枝葉を茂らせる」

甲府市役所が完成してから10ヶ月がたった。職員の対応も親切・丁寧で市民の評判もなかなかよい。組織もスリム化し人権に対する認識も担当課ばかりではなく、各部署の職員も高まってきており、職員間のコミュニケーションも徐々に図られてきている。

新庁舎が完成し1階に市民活動室という、市民団体と行政が協働で活動できる場所ができた。我々も「命のメッセージ展」を当初、2月18日から開催する予定であったが、あの大雪で帰宅困難者の待機場所、除雪にご尽力いただいた水戸市除雪ボランティア控え室として使用したため、2月20日から仮展示を行い、2月24日から3月3日まで本展示を行った。広く立派なスペースでメッセージ展を開催することができ、訪れた多くの方に人権について訴えることができた。

今後も同和問題の解決、また、この世の中から少しでも、いじめ、体罰などが無くなるよう、優しさを忘れず地域に根付いた活動を継続することで幹を太らせ、枝葉を茂らせるように事業を発展させていきますので、皆様ご協力をお願いします。

最後に甲府市教育委員会、長谷川教育長よりメッセージをいただきましたので紹介させていただきます。

長谷川教育長からのメッセージ

人権の畑を耕す

「あなたは、どんな時に人権を感じたことがありますか」、「あなたは、どんな時に人権を考えますか」と問われると、私たちはややもすると身構えてしまいがちです。いや、「対岸の火事」みたいな感じにもなります。

そのような中、杉藤旬亮先生のご講演を聞くと、人権というものが身近に感じ、また、人権について真剣に考えさせられます。

ところで、昨今、ちょっとした「からかい」や「差別」から「いじめ」へと発展するケースも耳にします。

私は「なぜ、差別やいじめはなくならないのか」といつも考えさせられています。そのような中、「差別やいじめ」は、人がつくるものであり、だとするならば、「差別やいじめ」は、人の力によってなくさなければ強く考えています。そのためには、「差別やいじめ」を生み出さない、「人権の畑を耕す」ことが非常に大切だと考えています。まさに、心の中に、しっかり育むことが大切と考えます。その意味でも、教育の力は限りなく重要だと考えます。

例えば、差別が表面化した形のひとつに「仲間はずし」があります。「仲間はずし」にされている時は、「自分も仲間に入れてほしいという、何らかのサインを出しています」。それは、ちょっとした言葉や行動に表れます。大切なのは、「教師がそのサインを見抜けるか」ということです。そのためには、教師として当たり前のことだが、「日頃の観察やアンテナを広く、高くして張り巡らせておくことが必要だと思います。また、教師は、「意図的にサインが表れやすい場をつくる」ことによって、少しでもサインを見逃さないようにしていく必要があると思います。このように、教師が人権感覚を磨かないと「差別」が見えてこないということです。

今日、学校における諸問題の根には、ほとんど差別があると思います。この差別をなくしていくことは、教師の使命だと思います。特に教職の道に身を置いていた私が強く感じていることです。

結びに、本県や甲府市において「人権移動教室」や「人権啓発パネル展」などがしっかりと定着してきているように思います。これも、杉藤旬亮先生や国連NGO横浜国際人権センター山梨プランチ 横山隆史氏の熱い思いがあってこそと感謝しております。これからも未永くご指導をいただきたいと思います。

甲府市教育委員会 教育長 長谷川 義高

国連NGO横浜国際人権センター・山梨プランチ

代表 横山 隆史（全日本同和会山梨県連合会会长）

〒400-0831 甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房1階 TEL 055-243-8563